

② 「みんなで一緒にあらかわろう！」(ARAKAWA TRANSFORMATION) ～荒川下流域でウェルビーイングの実現を目指し三つの柱を推進～

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所

キーワード 広報活動、SDGs、DX、ミズベ・グリーンコミュニティ、ウェルビーイング

全建賞審査委員会の評価ポイント

取り組みの少なかったSDGs、DXでの広報活動の取組。産官学での勉強会を設置し、全国初の3D洪水ハザードマップを公表するなど、取組の新規性がある点や、運営方針「みんなで一緒にあらかわろう」を宣言して、様々な取り組みと広報活動の促進に務めた点が評価された。

1. はじめに

荒川下流河川事務所では「健康な川づくり」をテーマとし、誰でも安心して利用できる福祉の荒川づくりなどを進めてきた。近年の福祉理念は、社会的弱者を支える福祉(Welfare)から、多様な人々の幸福度も含めた福祉(Well-being)へ変容してきており、河川行政においても同様の視点が求められている。そこで、ウェルビーイングな状態へ変容していくため、令和3年(2021)2月1日に荒川下流河川事務所運営方針「みんなで一緒にあらかわろう! Arakawa Transformation」を宣言し、3つの柱(ミッション)に取り組んでいる。

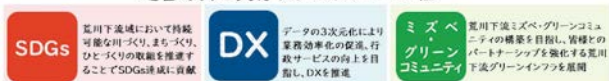


2021年2月1日(月)

荒川下流河川事務所は、荒川に触れ合うすべての人が荒川に関心をもち、「荒川」と荒川に関わる「まち」と「ひと」がともにウェルビーイング(健康)な状態へ変容していくこと(トランスフォーメーション)を皆様とともに目指します。

みんなで一緒にあらかわろう! (ARAKAWATRANSFORMATION)

運営方針を実行するための三つの柱



荒川下流河川事務所運営方針

2. 事業の概要及び成果

1) SDGsへの貢献

荒川水系(東京ブロック)流域治水協議会において、荒川下流域における「流域治水×SDGs」によるマルチステークホルダー・パートナーシップの強化を宣言し、これまで「荒川下流SDGsレポート」「荒川下流域SDGsパートナーズ」を公表し、関係者によるSDGs貢献の認識を高める取り組みを進めてきた。結果として各工事現場にSDGs達成への貢献をPRする工事看板が掲示され、協力会社の皆さんが主体的に流域治水によるSDGsの貢献についてYouTube動画を作成するなど、現場で働く関係者が自らの仕事とSDGsの関係を自己認識するきっかけになっている。

2) DXの推進(河川管理のDX)

3次元を基本とした働き方への変容を進めるため、令和3年(2021)4月から建設業界の団体等と共に「荒川DX勉強会」を開始した。令和3年(2021)7月5日には「荒川3D河川管内図」を全国に先駆けて一般公開した。これを活用し、「荒川3D洪水ハザードマップ」「荒川下流GISオープンデータポータル」など様々なサービスの提供も始め、令和4年(2022)7月から「荒川デジタルツイン構築運用方針」に基づく持続可能なデータ管理体制を構築した。これらによって河川管理プロセスを高度化すると共に、建設生産プロセスでは、受発注者双方の現場の理解不足による手戻りなどが大幅に減るフロントローディングの基盤になることを期待している。



荒川3D河川管内図

3) ミズベ・グリーンコミュニティの構築

荒川下流域では、水辺サポーター、荒川クリーンエイドなど様々な活動が積極的に行われてきたが、各団体の交流の機会が少ないことが課題だった。これらの活動の連携を深めて持続的に荒川を育てていくため、ミズベ・グリーンコミュニティを新たに打ち出し、「一緒にミズベ・グリーンコミュニティになりませんか?」という声掛けのもとで、新たな主体の参画によるグリーンインフラの取り組みを促進させていきたい。

3. おわりに

「みんなで一緒にあらかわろう!」の荒川下流域の取り組みと広報活動の促進により、様々なパートナーの主体的な参画と自発的な取り組み、職員の意識の変容に繋がってきていると考えている。今後もウェルビーイングの実現のため、あらゆる関係者の行動変容を促進する取り組みを進めていきたい。